



雨が降った後、川の水がどろ色になって水かさが増えるのはなぜ

川の水の3つのはたらき

川の水が流れるときに、川岸や川底をけずる、はたらきがあります。川の流れるは、けずった土砂などを、水といっしょに運びます。

川をけずり土砂を運ぶ力は、水の量が多いときや、流れが速いほど、大きくなります。また、流れがゆるやかな所では、積もらせるはたらきがさかんになります。

このように、川の水には、けずる、運ぶ、積もらせる、という3つのはたらきがあります。

雨水が加わり、けずる、運ぶはたらきが大きくなる

大雨が降った後の川は、いつもの川の流れるとは、まったくちがったようすを見せています。どろのように、にごった水で水かさが増し、流れの速さも、いつもの数倍の速さになっています。

大雨が降ると、降った雨は地面の土をけずりながら、低いほうへ流れていき、川へ流れこんでいきます。

川には、降った雨で水かさが増えるほかに、あちこちの地面などから、水が流れこんだりして、さらに水かさが増えます。水かさが増え、水の流れる速くなるので、川岸や川底をけずるはたらきと、けずったものを運ぶはたらきが大きくなり、川の水には、たくさんの土砂が混ざって、水がどろ色になるのです。（監修・国司 真）

